

磁気センサー スイッチ出力タイプ HGDE/HGDF シリーズ (双極 1 出力) デザインガイド

目次

1.	磁気スイッチの概要	3
2.	磁気スイッチの設計例	4
3.	磁石の選定	5
4.	磁気スイッチの回路設計例	5
5.	磁気センサーと磁石を使用する際の注意点.....	6
6.	ご注意事項	7

スイッチング出力タイプ HGDE/HGDF シリーズ (双極 1 出力)

HGDEPM013A, HGDEPT021B, HGDFPT021B

当社の高精度磁気センサーは、長年の磁気ヘッド事業で培われた先端技術から生まれ、水平方向の磁場を検知する MR センサーとして設計されています。中でも出力が高く、高温、高磁場耐性に優れる GMR 素子の採用により、ホール素子の約 100 倍、AMR 素子の約 10 倍と出力が非常に高く、高感度なセンサーになっています(当社比)。外部磁界に応じて非接触のスイッチ、リニアポジションや角度、回転スピードや方向の検知に使用可能な磁気センサーをラインナップしています。

本書では、スイッチング出力タイプ(HGDE/HGDF シリーズ)の内、双極 1 出力の磁気センサー(以下、磁気スイッチ)の使用方法を理解し、設計を進めて頂くための参考情報を記載しています。

1. 磁気スイッチの概要

磁気スイッチは磁界の強さの変化(磁束密度)を検知して、ON/OFF 信号を出力する磁気センサーです。双極 1 出力の磁気スイッチは、1 出力で水平方向の磁場のいずれの方向も検知する事ができ、磁石の向きを気にする必要がなく、広範囲の検知も可能です。動作時は図 1 のように+H 方向または-H 方向に向かう磁束が、HGDEPM013A の場合、1.3mT(typ.)で ON (出力 Low) し、0.8mT(typ.)で OFF(出力 High)します。製品毎の磁束密度は表 1 の通りです。

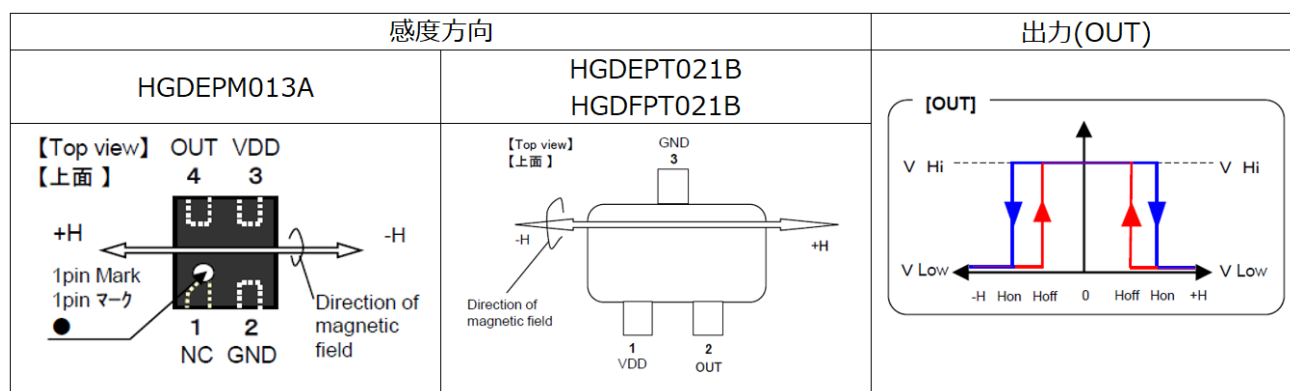


図 1 磁気スイッチ感度方向

表 1 磁気スイッチ動作時の磁束密度

Product No. 製品番号	Symbol 記号	Specification 規格			Unit. 単位	Condition 条件
		Min. 最小	Typ. 標準	Max. 最大		
HGDEPM013A	Hon(+/-)	0.6	1.3	2.0	mT	Ta=25℃ VDD: 1.8V/3.0V
	Hoff(+/-)	0.3	0.8	1.5		
HGDEPT021B	Hon(+/-)	1.3	2.0	2.7		
	Hoff(+/-)	0.5	1.2	1.9		
HGDFPT021B	Hon(+/-)	1.3	2.0	2.7		Ta=25℃ VDD: 5V
	Hoff(+/-)	0.5	1.2	1.9		

磁気スイッチに磁石を近づける際の磁束密度に関するグラフは、図 2、図 3 のようになります。図 2 は垂直方向の磁石の動きに対する磁束密度の変化を示し、図 3 は水平方向の磁石の動きに対する磁束密度の変化を示しています。

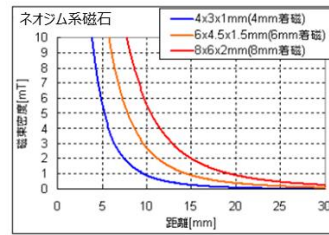
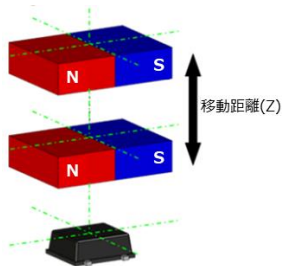
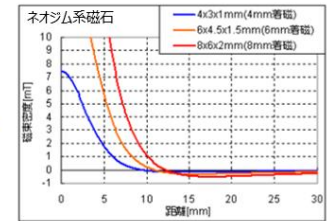
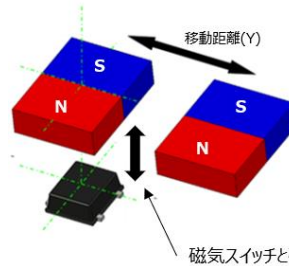


図 2 垂直方向に動作する磁石による磁束密度



磁気スイッチと磁石の距離: 4.6mm程度

図 3 水平方向に動作する磁石による磁束密度

2. 磁気スイッチの設計例

ここでは HGDEPM013A を例に、使用する磁石の種類を指定して、磁気スイッチに対して磁石を垂直方向に動作させて作動させる場合の設計例を記載します。HGDEPT021B, HGDFPT021B については、表 2 をご参照ください。

条件

磁石：ネオジム

磁石寸法：4×3×1mm 4mm(長手方向)着磁

検知方向：磁気スイッチに対し、磁石を上下する。

磁気スイッチ ON,OFF 時の磁束密度の目標値

磁気スイッチのヒステリシス特性も考慮して、確実に磁気スイッチが ON/OFF となる磁束密度の目標値を計算します。

- ON 時の磁束密度：2.4mT 以上(最大 ON 磁束密度が 2.0mT のため 20%余裕設定)
- OFF 時の磁束密度：0.24mT 以下(最小の OFF 磁束密度 0.3mT のため 20%余裕設定)

磁石の位置

ON 時：磁気スイッチから 7mm 以内

OFF 時：磁気スイッチから 16mm 以上

各 부품の位置を図 4 に示します。

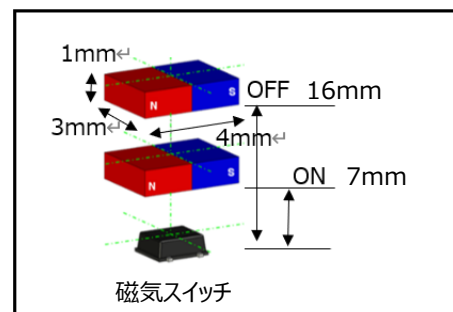


図 4 磁気スイッチと磁石の位置

表 2 磁束密度の目標値と距離

製品番号	記号	仕様 (mT)	目標値 20%余裕 (mT)	距離 (mm)
HGDEPM013A	Hon(Max)	2.0	2.40	7
	Hoff(Min)	0.3	0.24	16
HGDEPT021B	Hon(Max)	2.7	3.24	6
	Hoff(Min)	0.5	0.40	13
HGDFPT021B	Hon(Max)	2.7	3.24	6
	Hoff(Min)	0.5	0.40	13

磁石を動かすことができる範囲を機械的制約として、その範囲内で確実に磁気スイッチが ON/OFF するような磁石の種類を選ぶ設計アプローチもあります。この場合、磁束密度の目標値を設定後、適切な磁石の選定について磁石メーカーにご相談ください。

3. 磁石の選定

様々な形状の磁石がありますが、図 5 のような磁石が、磁気スイッチに適しています。

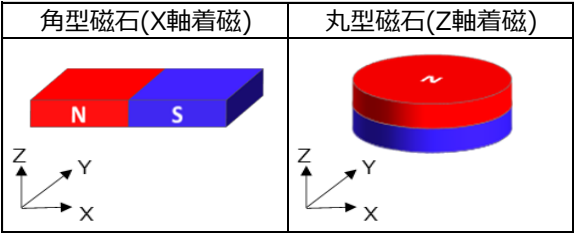


図 5 磁石の例

4. 磁気スイッチの回路設計例

磁気スイッチの推奨回路(図 6)と設計値の例(表 3)は下記の通りです。OUT 端子の定格出力電流は小さい為、必要に応じて OUT 端子に電流制限抵抗を追加してください。

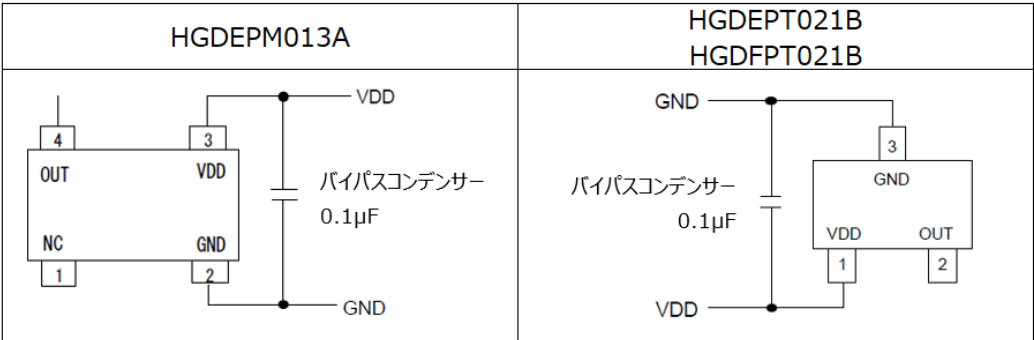


図 6 磁気スイッチ推奨回路

表 3 設計値の例

製品番号	HGDEPM013A	HGDEPT021B	HGDFPT021B
電源電圧	1.8V(Typ.)		5V(Typ.)
バイパスコンデンサー	0.1uF		

5. 磁気センサーと磁石を使用する際の注意点

磁気センサーと磁石を使用する際の一般的な注意点について以下に記載します。

適切な磁石の選択

磁石の種類と強さを選択する際は、磁気センサーの仕様とアプリケーションの要件に合わせて選定してください。磁石の強さがセンサーに過度に影響を及ぼす場合など、誤動作が発生する可能性があります。

磁石の熱対策

磁石は温度に敏感で、温度の変化によって磁力が変わります。磁気センサーや磁石が熱にさらされる場合、磁場の安定性に影響を及ぼす可能性があるため、適切な熱対策を検討する必要があります。

磁石配置と周辺磁性材の影響

磁気センサーは周辺磁性材(磁石や鉄など)の影響を受けます。磁場の乱れが磁気センサーの性能に影響を及ぼすかどうかを確認して、磁石、周辺磁性材とセンサーを適切な位置関係に調整してください。

静電気対策

磁気センサーは IC です。静電気保護回路の能力を超える静電気が加わった場合には破壊されます。取り扱いの際には十分な静電気対策を実施してください。

EMC 対策

車載環境での電源電圧ストレス、電波照射により磁気センサーが破壊や誤動作を起こす可能性があります。必要に応じて保護部品による対策を実施してください(ツェナーダイオード、コンデンサー、抵抗、インダクターなど)。

6. ご注意事項

1. 本書の記載内容は、予告なく変更することがあります。
2. 本書の一部または全部を当社の許可なく、転載・複写することを堅くお断りします。
3. 本書に記載のソフトウェア、回路例などの情報は、本製品の標準的な動作や使い方を紹介したものであり、専らお客様ご自身の判断と責任において使用又は参考にしていただくことを目的としたものであるため、内容の正確性・特定の商品への適合性・安全性・その他一切の事項について何らの保証を行うものではありません。また、実際の設計にご使用になる場合には、お客様の責任において、お客様の製品を設計してください。本書を使用あるいは参考としたことに起因してお客様または第三者に生じたいかなる損害に関しても、当社は一切その責任を負いません。
4. 本書に記載された製品データ、図、表、プログラム、回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
5. 国内外の輸出関連法規により規制されている製品の輸出に際しては、同法規を遵守の上、必要な許可、手続きなどを取ってください。
6. 本書に記載されている内容、製品についてのご不明な点は、当社担当営業までお問合せください。

製品・サービスについてのお問い合わせ窓口

当社の製品やサービスに関するお問い合わせは、当社ホームページのお問い合わせ窓口までお願いします。

改訂履歴

日付	版	変更内容
2024 年 5 月 24 日	1.0	初版発行